意識検定３級 ミニ 問題集

～誰もが持ってて、誰も解明できない、意識に関する話～

Contents

意識検定３級 - 問題３０問 **2**

あとがき **24**

意識検定３級

問題３０問

問１

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

哲学的な議論において、自分自身以外の意識を持つ存在を確認することが不可能である状況を（ア）で表す。

① ソリプシズム

② デカルトの懐疑

③ ベイズ主義

問２

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

意識が生じるにはある程度まとまった情報処理が必要である。
この過程を説明するために提唱された理論として、意識の統合度を数値化することを試みたのが（ア）である。

① 統合情報理論

② 夢分析理論

③ 進化心理学

問３

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

意識に相関する脳活動は、特に（ア）として知られている。

① ニューロン振動

② ハード・プロブレム

③ NCC

問 1 解説

正解は **1** です。

ソリプシズムとは、他者の意識の存在を示すことができないという哲学的立場のことです。自分の意識だけが確実であり、他者の意識は推測の範囲を出ないとするこの議論は、意識研究においてしばしば論争の的となります。これを考察すると、隣の席の友達が実際に意識を持っているのか、果てさて我々はずっと疑い続ける人生を送らねばならないのか……と、やや悲劇的な感じになりますね。

問 2 解説

正解は **1** です。

統合情報理論（IIT）は、ジュリオ・トノーニによって提唱された意識の理論で、システムがどれだけ情報を統合して処理しているかで意識の存在を説明しようとします。この理論は、意識を科学的に研究するアプローチの 1 つとして注目です。この理論は、情報の量と質について議論し、定性的に「感じる」ことの背後にある数値的表現を探求します。データの中にあなたの意識がある可能性を示唆してくれるのです。夢分析や進化心理学も興味深い分野ですが、意識そのものを数値化する試みは IIT が最前線と言えます。

問 3 解説

正解は **3** です。

「NCC」とは「neural correlates of consciousness（意識に相関する脳活動）」の略称で、意識と関連する脳内での活動を指します。これは意識研究の一つの大きなテーマであり、意識をつかさどる神経回路やメカニズムを明らかにすることを目指しています。意識体験がどのような脳の働きに基づいているのかを探るこの分野では、「ハード・プロブレム」のような哲学的問題とも関連しています。意識研究はまだ未解明の領域が多く、学問的にも興味深い挑戦を提供してくれます。

問4

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

人間の耳は、実際に存在しない音を知覚することがある。
この現象は（ア）と呼ばれる。

① 聴覚補完

② 聴覚錯覚

③ 残響現象

問5

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

自己認識のテストとして有名なものに、動物の顔に印をつけて鏡を見せる（ア）という方法がある。

① ミラーテスト

② 影テスト

③ 見つめ合いテスト

問6

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

人間は他者の感情を瞬時に察知し、同じように感じ始めることがあるが、これは（ア）と呼ばれる現象である。

① 同情

② 情動感染

③ 共感

問4 解説

正解は **2** です。

聴覚錯覚は、聞こえてくる音が実際の物理的な音と異なる場合に生じます。「音の錯覚」として有名なものにシェファード音階があります。これは、音高が永遠に上がり続けるように聞こえるものの、実際には周期的に繰り返される音階です。また、音量を保ちながら、音が消えてしまったように感じることもあります。この現象は、私たちの脳が音をどのように処理しているのかを示しており、聴覚の不思議が詰まっています。つまり、私たちが知覚する音は、単に耳から受け取った情報だけでなく、脳の解釈によって大きく影響を受けるということです。音楽を聴くときも、この錯覚が潜んでいるかもしれませんよ。

問5 解説

正解は **1** です。

ミラーテストとは、動物が自分の姿を鏡で見た際に、自分自身を認識できるかどうかを試す実験です。このテストで動物の顔や体に印をつけて、鏡を見た際にその印を触ろうとする仕草を見せれば、自己を認識していると判断されます。チンパンジーや一部の鳥類、イルカなどがこのテストに合格したことで有名で、自己認識能力がある程度発達していることが示唆されています。

問6 解説

正解は **2** です。

情動感染とは、他人の感情が文字通り「感染」して自分も同じ感情を感じる現象です。例えば、緊張感のある場所にいると自分もなぜか緊張してしまったり、集団の中で笑っている人を見ると自分も笑いが止まらなくなったりする経験をしたことはありませんか？これは情動感染の一例です。この現象は進化の過程で集団の結束を高めるために役立っていたと考えられます。所属するグループが危険を感じたらすぐに逃げる、喜びを感じたら共に盛り上がる、といった行動は生存に直結していたのです。科学的には、「ミラーニューロン」という脳の特殊な細胞が関与しているとされていますが、なんとも不思議な体験ですよね。あなたも笑顔に囲まれるときっと自然に微笑んでしまうはずです。

問7

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

人間の意識によって経験される、主観的な体験の質感を指して（ア）という。

① パラドックスポイント

② クオリア

③ シナプスフィクション

問8

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

デカルトは、心と体が異なる性質を持つとする「心身二元論」を唱えた。
その中で、物質である身体と非物質である精神（心）が接触する場所として、脳の（ア）に注目した。

① 小脳

② 松果体

③ 大脳皮質

問9

空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

あなたの双子（ア）とは、見た目、振る舞い、言動など、ありとあらゆるものがあなたと同じであるが意識を一切持たない存在のことである。

① ゾンビ

② ミームマシン

③ ゴースト

問 7 解説

正解は **2** です。

クオリアとは、私たちが意識内で経験する主観的な体験の質感や感覚、つまり「何がどのように感じられるか」ということを指します。たとえば、赤い花を見たときの「赤さ」や痛みを伴う感覚などがクオリアに該当するのです。他の哲学用語と違って、興味深いのはこれが日常的かつ普遍的なものであるにもかかわらず、一部の科学者には依然として捉えにくいという点でしょう。まるで私たちの脳は喜劇や悲劇を演じる舞台のようですが、幕が上がるのはいつも私たちの心の内面です。

問 8 解説

正解は **2** です。

デカルトは、心（精神）と体（物質）は本質的に異なると考える「心身二元論」を提唱しました。では、この全く異なる二つがどこで結びつくのか？と考えたデカルトは、脳の中心に位置する松果体に注目しました。彼は、松果体が心と体を結びつける「接点」だと考えました。ただし、今日ではそのような機能は否定されています。

問 9 解説

正解は **1** です。

哲学の世界には「哲学的ゾンビ」という奇妙な存在がいます。これはデイヴィッド・チャーマーズが〈意識のハード・プロブレム〉を説明する際に持ち出す想像上の双子で、外見も行動もあなたと寸分違わないのに、内側にはクオリア——主観的な体験——がまったくありません。もしゾンビが論理的に成り立つなら、物理的な脳の記述だけでは「感じる」という現象を説明し切れないことになります。この思考実験は、神経科学がどれほど進歩しても「なぜ赤は赤く“感じられる”のか」という根源的な疑問が残ることを私たちに思い出させ、物質主義の立場に一呼吸置かせる役割を果たします。つまりゾンビは、科学と哲学が手を取り合わざるを得ない地点を指し示す鏡なのです。もっとも、街角で自分そっくりの人を見かけても「ゾンビか!?」と声に出すのは控えてください。噛まれない限りご安心を。

問10

下記の考え方を表す最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

心とは自分だけの劇場である。
この劇場には、色、におい、音、情動などが満ちている。
この劇場の中に私はいる。

① 錯覚

② クオリア

③ 心の劇場

問11

クオリアと呼べるものを選択肢より１つ選べ。

① 宇宙空間までの距離

② りんごの赤さ

③ あなたの名前

問12

あなたは、事象 A：「皮膚が傷つく」と事象 B「痛みを感じる」を観測した。
この観測に関して言及した文章として最も適切な内容のものを選択肢より１つ選べ。

① 事象 A が事象 B を引き起こしたという因果関係は明らかである。

② 事象 B が事象 A を引き起こしたという因果関係は明らかである。

③ 事象 A と事象 B の関連は恐らく間違いないが、因果関係について確実なことは何も言えない。

問 10 解説

正解は **3** です。

この問題で引用されているのは「心の劇場」理論です。これは心を一種の舞台にたとえる比喩で、舞台の上に上がったもの——たとえば思考、感情、記憶——が私たちの意識にのぼるという考え方です。舞台の上に何が現れるかは、スポットライトの当て方によって決まり、それが注意や関心といった心理機能に対応しています。バーナード・バーズによって提唱された「グローバルワークスペース理論」は、この「劇場モデル」をベースに意識の情報処理を説明します。つまり、私たちの心は常に舞台裏で膨大な処理を行いながら、そのうちのわずかな情報だけを「今、意識している」と感じているのです。誰が観客なのかって？　それこそが「私」という問いの始まりかもしれません。

問 11 解説

正解は **2** です。

「クオリア」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？　これは「感じの質」や「主観的体験の中身」を指す哲学的な用語です。たとえば「りんごの赤さ」を見たときの視覚的な感覚や、「チョコレートの味」を味わったときの感覚は、科学的には脳の状態で表現できますが、あくまで「そのように感じている」という内側の実感は、他人と共有することができません。ここに意識研究の最大の壁があります。クオリアの存在を前提とするなら、たとえ人間と同じように振る舞う AI が登場しても、それが「本当に感じているか」は外からは判断できません。赤を“赤い”と感じるその感覚——それがクオリアであり、意識の核心なのです。

問 12 解説

正解は **3** です。

事象 A と B の因果関係を考えるとき、私たちはつい「傷ついたから痛い」「痛いのは傷のせいだ」と直感的に理解してしまいます。しかし哲学的には、観測しただけで因果関係を断定することはできません。これは「ヒュームの懐疑」とも呼ばれる思考で、デイヴィッド・ヒュームは「どれほど反復して経験しても、そこに必然的なつながりを見ることはできない」と言いました。現代の哲学でも、このような懐疑的立場は健在で、因果性を論じるにはさらなる検証や枠組みが必要とされます。この問題では、事象 A と B の関係性は示されていても、その因果が確実とは言い切れないことを指摘する選択肢が正解です。疑うこと、それが哲学の出発点なのです。

問13

空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

客観的に存在するものがその本性とは異なる様子で知覚されるとき、（ア）が起きているという。

① 錯覚

② 覚醒

③ 無意識

問14

空欄（ア）と（イ）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

自らの意思によって動かす運動のことを（ア）と呼ぶ。
（ア）の数百ミリ秒前に脳の活動電位に変化が現れるという報告がある。
この電位変化を（イ）と呼ぶ。

① （ア）随意運動（イ）運動準備電位

② （ア）随意運動（イ）静止膜電位

③ （ア）不随意運動（イ）静止膜電位

問15

生物学者ニコス・ロゴセティスが 1970 年代に行った実験について言及したものとして適切な内容のものを選択肢より１つ選べ。

① この実験により、脳の細胞が意識を生み出す計算処理が明らかになった。

② 両眼視野闘争が生じているときに、どちらの絵が見えているのかを報告するようにサルを訓練した。

③ 多義図形を見せている間、脳のどの細胞にも変化は見られなかった。

問 13 解説

正解は **1** です。

この問題で問われているのは、世界と心の関係をどう捉えるかという「知覚の哲学」に関わるテーマです。私たちは「見えているものが現実だ」と信じがちですが、現代の認知科学では、知覚は脳による“ 構築 ”ととらえられています。錯覚とは実際には存在しないものを本物のように感じてしまう現象で、脳が状況や経験に基づいて知覚を補完・予測している証拠です。つまり、私たちが見る世界は客観的な“ 鏡 ”ではなく、心のフィルターを通して加工された「現実」であり、この創造性こそがこころの哲学の面白さを際立たせます。

問 14 解説

正解は **1** です。

「随意運動」と「運動準備電位」を扱うこの問題は、ベンジャミン・リベットの有名な実験に基づいています。リベットは被験者に指を動かす意図と実際の運動のタイミングを時計で報告させ、脳波を同時に測定しました。その結果、被験者が「動かそう」と意識的に決意する約 0.2 秒前に、運動準備電位（BP）が検出されたのです。この発見は「私たちの意識的意思決定は、脳が既に始めたプロセスの後追いにすぎないかもしれない」という衝撃的な示唆を与え、自由意志の哲学的議論に新たな視点をもたらしました。

問 15 解説

正解は **2** です。

ニコス・ロゴセティスの 1970 年代実験は「両眼視野闘争（binocular rivalry）」を用いたもので、サルの片眼に異なる画像を見せ続けると、意識的体験が交互に変わることを示しました。彼は「どちらの画像が見えているか」をサルにボタンで報告させ、その間の脳活動を記録。結果、視覚野の一部で、刺激の変化ではなく「報告された体験」に同期する神経応答が観察され、意識の神経相関（NCC）の探索に大きく貢献しました。

問16

外的刺激に意味づけを行うことを（ア）と呼ぶ。
（ア）に至るまでに（イ）と（ウ）が行われる。
（イ）では、光や音などの物理的な刺激を細胞が受容する。
（ウ）では、受容した刺激から構造を検出する。

① （ア）知覚（イ）感覚（ウ）認知

② （ア）認知（イ）感覚（ウ）知覚

③ （ア）感覚（イ）知覚（ウ）認知

問17

あなたは今問題文を読んでいる。
問題文を読んでいるときに注視をして、誰かに報告することが可能な単語は、Ned Block が提唱するところの（ア）にのぼっている。
一方、注視している単語の周辺に存在し、知覚はできるが報告が難しい単語は、Ned Block が提唱するところの（イ）にのぼっている。

① （ア）アクセス意識（イ）現象的意識

② （ア）クオリア（イ）現象的意識

③ （ア）現象的意識（イ）アクセス意識

問18

空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

動物の生理作用としての（ア）とは、外界の刺激に対する反応のうち、意識される事ないものを指す。

① 随意運動

② 反射

③ 自律

問 16 解説

正解は **2** です。

外的刺激に意味づけを行うプロセスは、感覚→知覚→認知という三段階モデルで説明されます。まず「感覚」で網膜や聴覚器官が物理刺激を電気信号に変換し、その後「知覚」で形や色、音として統合されます。最後に「認知」段階で過去の経験や文脈に照らして意味づけが行われ、私たちは「これは何か」「どう扱うべきか」を判断します。この階層構造により、刺激はただのデータから意味ある情報へと昇華し、意識的体験を構成します。

問 17 解説

正解は **1** です。

この問題で挙げられた「クオリア」は、「現象的意識（phenomenal consciousness）」と呼ばれる概念です。私たちが文章を読んでいるとき、その体験には文字や意味を認識するだけでなく、「読む」という行為そのものの質感がともないます。たとえば文字を追う視線の動きや、理解したときの即時的な“わかった感”は、アクセス可能な情報処理とは別に、内側で感じられる主観的体験です。クオリアはこのような「感じていることのありさま」を示し、意識研究の中心的テーマとなっています。

問 18 解説

正解は **2** です。

「反射（reflex）」とは、外界からの刺激に対して、意識とは無関係に、即座に起こる生理的反応のことです。たとえば熱いものに触れたときに手を引っ込める動作は、脳で「熱い」と認識する前に、脊髄のレベルで自動的に起こる反応です。反射は、意識や意志を介さずに生じるため、心の作用とは一線を画した身体の自動性の好例とされています。

問19

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

人間なら誰しも持っていると信じられている、体験や感覚が主観的に体験される性質を（ア）という。

① クオリア

② ソリプシズム

③ デカルト的二元論

問20

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

他者の行動を観察するとき、その動作や意図が自分の脳内でそれに伴うニューロンの活動として再現される。
この現象を可能にしている神経細胞を（ア）という。

① コネクショニスト

② ミラーニューロン

③ シナプス

問21

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

（ア）とは、脳が外部の仕事に関与していないときに活性化する脳の回路である。

① デフォルトモードネットワーク

② シナプス伝達

③ 運動皮質

問 19 解説

正解は **1** です。

クオリアとは、私たちが経験する主観的な体験のことを指します。たとえば、赤い色を見たときの「赤さ」の感覚や、あるいは音楽を聞いたときの感覚などです。クオリアという言葉は、哲学者の間でよく使われ、意識の困難な問題の 1 つとして議論されています。身の回りのさまざまな事象がどのように主観として可視化されるのかを問うこの概念は、意識の解剖を行う上で非常に重要な役割を果たしています。

問 20 解説

正解は **2** です。

ミラーニューロンは、他者の行動を見たり自分で行動する際に活動する特定のニューロンのことです。人が他の人の行動を見ているとき、その動作を自分で再現しているかのように脳が反応するのがこのミラーニューロンのおかげです。このメカニズムは人間の共感能力や模倣学習に寄与すると考えられています。たとえば、あなたが誰かが笑うのを見て、自分もつい笑顔になるとしたら、ミラーニューロンが活動しているのかもしれません。このように、他者の感情や意図を理解するために重要な役割を果たしているのです。

問 21 解説

正解は **1** です。

デフォルトモードネットワーク（DMN）は、私たちが休んでいるときや、ぼんやりしているとき、または自分の内面を思索しているときに活性化する脳の領域群です。このネットワークは、内省的な思考や自己反省、想像力、感情の処理、そして他人の心を理解する能力に関与しているとされます。一見何もしていないように見える時でも、脳は熱心に働いているというわけですね。

問22

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

視覚の錯覚によって、同じ長さの線が異なる長さに見える現象を（ア）という。

① ミュラー・リヤー錯視
② ルビンの壺
③ トロクスラー効果

問23

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

（ア）とは、異なる音の刺激が同時に提示されることで、別の音を知覚する現象のことである。

① 聴覚錯覚
② 視覚錯覚
③ 味覚錯覚

問24

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

異なる感覚が結びついて一緒に感じられる現象を（ア）という。

① シナスタジア
② エスペラント
③ メタファー

問 22 解説

正解は **1** です。

ミュラー・リヤー錯視とは、主に 2 本の平行な直線の両端に矢羽のような形状をつけることで、線の長さが異なって見える視覚錯覚です。例えば、上向きの矢羽と下向きの矢羽がそれぞれ直線の両端についている場合、直線の長さは同じでも一方が長く見えるのです。この現象は、視覚的過程や知覚の仕組みを理解するうえで重要で、多くの心理学者や哲学者たちの興味を引いています。私たちの脳がどのようにして世界を解釈し、錯覚が生じるのかを探る手がかりを与えてくれます。実生活でも、デザインや広告などに利用されることがありますので、注意深く見ると面白いかもしれません。

問 23 解説

正解は **1** です。

聴覚錯覚は、音に対する私たちの脳の不思議な働きを示す現象です。一例として「シェパード音階」があり、これを聞くとあたかも音階が永遠に上昇を続けるように感じます。これは音のループにより、各音階が重複している部分でうまく隠されているためです。視覚的な錯覚と同様に、聴覚錯覚も私たちの知覚システムがどのように情報を解釈するかを現実的に学ぶ良い機会となります。それにしても、音の魔法にかかるのは楽しいことです。

問 24 解説

正解は **1** です。

シナスタジアとは、異なる感覚が結びついて一緒に感じられる現象のことです。この現象を持つ人は、音に色を感じたり、数字に特定の味を感じたりすることがあります。たとえば、ある音楽を聴くと必ず青い色を思い浮かべる、といったことです。通常の五感が混ざり合うことで、シナスタジア特有の感覚体験が生まれます。この現象は、科学的にも非常に興味深く、一部の芸術家や音楽家には創造性を高める要因になると考えられています。

問 25

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

我々は日常生活の中で、視覚的な情報を瞬時に処理している。
しかし、特定の条件下では、その変化に気づかないことがある。
この現象を（ア）という。

① 変化盲

② 絵画的急変

③ 印象錯誤

問 26

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

（ア）とは、個人の決定や行動が他の要因に縛られずに、自ら選ぶことができるという概念である。

① 自由意志

② 決定論

③ 因果律

問 27

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

人間の意志が全て物理法則によって決定されていると考える立場を（ア）という。

① 自由意志

② 決定論

③ 偶然論

問 25 解説

正解は **1** です。

変化盲とは、視覚情報の変化に気づきにくくなる現象です。例えば、映画やビデオのカットが切り替わる際に背景や小道具が変わっても、それに全く気づかないことがあります。この現象は、視覚処理がいかに効率的に行われているか、そして時には見逃しもあることを示しています。脳が大量の情報をフィルタリングしながらできる限り効率的に処理しようとする結果、その変化が小さなものであると捉えられた場合に生じるのです。

問 26 解説

正解は **1** です。

自由意志とは、自分自身の意思に基づいて決定を下すことができるという考え方です。この概念は、人間がどの程度自分の行動を自律的にコントロールできるのかを問う議論において中心的な役割を果たします。一方で、決定論はすべての出来事が原因と結果の連鎖で決定されると考えます。自由意志が存在するかどうかは、哲学や倫理学における長年の議論の的で、自由意志と決定論がどのように共存し得るかを探る試みも盛んです。映画や文学でも、自由意志をテーマにした作品は数多く、観客を深い思索の旅に誘います。ぜひ、自分の人生がどれだけ自由意志によって導かれているか、じっくりと考えてみましょう。

問 27 解説

正解は **2** です。

決定論とは、全ての出来事、選択、行動が過去の出来事や物理法則などによって決定されているという立場です。この考え方においては、人間の意志ですら物理法則によって説明可能で、自由意志は幻想に過ぎないと言うこともあります。日常生活で「今日は気分で行動した」と言っても、それもまた一連の因果の中で決まっているかもしれないと考えると、少し困惑してしまいますね。

問 28

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

「主観的な経験を自分自身の精神活動として直接観察すること」を（ア）という。

① 内観

② 外観

③ 直感

問 29

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

他人の感情や情緒が伝染する現象を（ア）という。

① 情動感染

② 集合的無意識

③ 認知的不協和

問 30

下記の文章において、空欄（ア）に当てはまる最も適切なものを選択肢より１つ選べ。

他の生物がどのように世界を経験しているのか、特に主体的な感覚や意識を持つ生物に関して、人間には理解しづらいという問題を（ア）という。

① 二重停止問題

② コウモリ問題

③ 知識の逆説

問 28 解説

正解は **1** です。

内観とは、意識の中で自分の思考や感情、感覚などを直接観察する方法のことです。たとえば、自分が悲しんでいると感じたとき、その悲しみを構成している感情を細かく見つめ直すといった活動が内観です。哲学や心理学でしばしば用いられ、新たな洞察を得る手がかりとなります。日常の事柄を深く見つめ直し、自分自身の精神状態を客観的に理解する場面でも役立ちます。もしかして、これを使いこなせれば、突如訪れる試験問題や恋の悩みにすら立ち向かえるかもしれませんね。

問 29 解説

正解は **1** です。

情動感染とは、他人の感情が無意識に私たちに伝わり、あたかも自分の感情であるかのように感じてしまう現象のことです。映画を観ているとき、登場人物が悲しいシーンで涙を流す、または喜んでいるシーンで自分も幸せな気持ちになることがありますよね。これが情動感染の一例です。

問 30 解説

正解は **2** です。

コウモリ問題とは、哲学者トーマス・ネーゲルが提唱したもので、他の生物、特にコウモリのような知覚能力の異なる生物の主観的経験をどのように理解するのかという問題を指します。彼は有名な論文『What is it like to be a bat?』でこの問題を論じました。コウモリの高周波音で獲物を追う感覚を“完全に”再現することなど、生身の人間にとって実質的に不可能でしょう。自由に想像できますが、その感覚を得ることは決してできないのです。

あとがき

意識のことが好きになってから 10 年くらい経ちました。
2025 年になってようやっと創作物という形で世に出すことができました。
まだまだしたいことがありますし、まだまだ作り込みたいです。
意識検定は下記の URL で公開していますので、ぜひ遊んでみてください。
https://www.ishiki-kentei.com/
またお会いできると幸いです。